

田川地区の県立高校再編整備計画（骨子）に係る地域説明会
庄内町会場 記録概要

- 1 日 時 平成 25 年 3 月 26 日（火）19：00～20：40
- 2 場 所 庄内町文化創造館響ホール 大ホール
- 3 出席者 地域の方々 166 名
県教育委員会 教育次長、高校改革推進室長、高校改革推進室室長補佐
高校改革専門員、高校改革主査 3 名
- 4 内 容 高校改革推進室長から計画骨子を説明後、質疑応答
- 5 質疑応答概要

（質問・意見）

- 個性のある人材を輩出している庄内総合高校を存続してもらいたい。私の会社では、庄内総合高校の出身者が中堅幹部として活躍している。地元には高校があるからこそ就職の機会、雇用の機会が増えていったのだと思う。
- 少子化の点から再編整備はやむを得ないと思うが、将来、庄内総合高校がなくなるのではないかと不安だ。総合学科は、当面は 2 校配置を維持しながら、状況を見ながら 1 校に絞っていくという計画か。
- 中学生が学校選びをする際に、施設の環境もあると思う。総合学科の鶴岡中央高校は校舎は新しい。庄内総合高校の校舎を新しくし、条件を同じにした上で判断して欲しい。
- 鶴岡市と酒田市に高校を集中させるのではなく、地域バランスや生徒の通学事情を考慮して、庄内町にも高校があっても良いのではないか。
- 庄内総合高校は地域の行事に参加したり、地域づくりに関わったりするなど、庄内町にとっては元気の源であり、財産である。庄内町の活性化のためにも絶対に失いたくない学校である。

（県教育委員会）

- 検討委員会でも地域の声を反映しないで決めるべきではない、地域の住民感情も配慮しながら今後再編整備していく必要があるのではないかと声をいただいた。
- 学校や学科の配置については、学ぶ子どもたちにとっての学びの環境を中心に考えている。鶴岡市に一極集中的に集めるのもいかがなものかという御意見もいただいているが、それは、通学事情や、学校を残して欲しいといった地域の方々の思いに配慮して欲しいということと推察する。
- 本県初の総合学科として、5 つの特色ある系列を置きながら、進学、就職に対応している。少子化で生徒数が減っていく中でも、いかに学校の魅力づくりをするかといった視点を大事にしたいことから、このような方向性を示したところである。
- 現実的に少子化が進んでいることから、将来の高校の配置や在り方を具体的に検討しなければならない時期がいずれ来ると考えているが、地域の思いも大切に、学校の魅力づくりをしながら、いかに子どもたちに学びの場を提供していくかが当面の課題であると考えている。
- 平成 36 年には田川地区全体の中学校卒業生数が 1,200 人台になる。また、次期県立高校教育改革実施計画（平成 27 年度から平成 36 年度）の中頃に具体的な検討を行うのは、その時期には、地域や社会の状況が更に変化していることが予想されるためである。

（質問・意見）

- 学校は地域にとっては文化の拠点であり、生きる力でもあり、未来だ。学校を失って地域の活力がなくなったところはたくさんある。学校がなくなることで、住民の心ま

でが過疎化してしまうことを恐れている。

- 子どもの数が少なくなれば集めて新しい学校をつくることの繰り返しをしているのではないか。ヨーロッパでは小さな学校もたくさんあり、いきいきと教育を行っていると聞いている。小さくても子どもがいるところには学校があるという考え方に転換する良い機会ではないか。
- 高校の役割として人材の育成面もあっても良いが、人間を育成して欲しいと思う。高校で何らかの専門を学んでも、その時に専門を生かせる雇用がなければあぶれてしまう。どんな逆境でも切り開いていけるような人間力を養って欲しい。また地域を守っていく子どもを育てて欲しい。
- 高校はほとんど全員が入るようになってきている。高校入試を廃止して希望者は全員高校に入れるようにしてはどうか。

(県教育委員会)

- 今は教育の様々な変革の時期だ。国の動向等を注視しながら制度改革を進める必要があるが、現時点で高校入試をなくすとは申し上げることはできない。
- 学校教育の原点は人間教育、心の教育だと考えている。学校は単に知識を伝えたり技術を習得させたりする場所だとは考えていない。本県でもいのちかがやく人間の教育ということで、人間性豊かな生徒の育成に取り組んでいる。御指摘の通り人間力を大事にした教育が学校教育の本質と考えている。
- 今現在、本県では99.3%の中学生が高校に進学する。ほとんどの生徒が進学する時代だからこそ、それぞれの生徒が持っている個性を伸長できるような特色ある学校を設置していくことが必要であると考えている。
- 小規模校も含めた学校の特色づくりは、重要な視点だと考えているところである。その一方で、検討委員会や地域の方々のニーズ、そして地域全体のバランスも無視するわけにはいかないことを御理解いただきたい。

(質問・意見)

- 少子化で再編整備が必要なことは理解している。地区内に8校ある県立高校を具体的にどのような形で再編整備することになるのか。庄内総合高校はどのような形のなかで再編整備され、設置場所はどこになるのか。早めに地域住民に具体的な計画を知らせて欲しい。この10年間の中頃に具体的な検討をしていくという説明は残念だ。
- 県教育委員会が考える適正規模の高校とはどのようなことか。
- 鶴岡市、酒田市に高校を全部集中させた場合、学校と地域が一体となった地域社会をつくっていくことができない。学校がなくなることで、少子化がますます進行し、教育の地域的な格差につながることになるのではないか。

(県教育委員会)

- 今回の計画では具体的な学校の統合や学科をどうするのかでなく、平成36年度までに目指す方向性を示している。方向性としては、普通科の在り方、校舎制という新しい概念も取り入れた専門学科と総合学科の在り方、夜間定時制を昼間定時制に移行し通信制を併設する定時制・通信制の在り方の三つを示した。
- いつ頃に具体的な学校の配置や学科の在り方を検討するのかについては、平成27年度から平成36年度までの10年間を計画期間と予定している次期県立高校教育改革実施計画がこれから検討されることから、その計画期間の中頃に県の方で検討することとしている。

(質問・意見)

- 庄内総合高校には、飽海地区からも最上地区からも生徒が通学している。陸羽西線、羽越本線もあるといった交通の利便性を考えれば、庄内町は拠点となってもいいので

はないかと思う。

(県教育委員会)

- 庄内総合高校の生徒の出身地区ごとの割合をみると、田川地区から50数%、酒田飽海地区から約40%、新庄最上からも約3%の生徒が通学している。そういった意味で、地の利のある場所だと認識している。

(質問・意見)

- 昨年2月の中間報告書の説明会では、総合学科を一つにするという説明だった。その後、同窓会としても危機感をもって存続に向けた署名活動、県教育長への要望書の提出、議会の方への意見書の提出など支援活動を行った。
- 今回の計画では、総合学科は、当面2校配置を維持するということであるので、今後の5年間でどのように学校を盛り上げていくかということが大切だと思っている。その後、どれだけ入学定員が残るかということにかかっている。今年は残念ながら出願者数が入学定員に7名足りなかった。地元も更なる努力と協力が必要である。
- 1クラスの定員を40人に固定するのではなく、35人学級や30人学級など少人数学級についても検討して欲しい。子どもたちの学力が年々下がっているということが言われている。県は1学年4学級以上を適正規模としているが、生徒数が多ければ良いといえるのか。
- 子どもたちが新しい学校に行きたいと思うことは理解できるが、単に校舎を何億もかけて再編整備するよりも、今ある小規模校を充実させた方がお金がかからないのではないか。
- 地域と一体となった教育活動の方向性を持っていること、庄内町の交通の利便性、この不況の時代の家庭の経済的な負担を考えると、鶴岡市・酒田市にだけ高校を集中させるのではなく、郡部の方にも歩いて通える学校は必要だと思う。庄内総合高校の存続をよろしく願いたい。

(県教育委員会)

- 同窓会からは熱心な要望をいただいている。庄内総合高校については、地域の方々の支援を得ながら、これからどう学校の魅力をつくるかということについては、一つの方向性を出していただいているのではないかと思う。
- ある程度の規模をもった学校でないと、どうしても教員の数が少なくなり、教育課程の編成に制約が生じたり、指導できる部活動の数が少なくなったりする。また、高校生は、世の中に出て行く直前の世代であり、変化の激しい時代を生き抜いていくために、切磋琢磨しながら鍛えてあげることも必要だ。
- 小規模だからだめだと言っているのではない。1学年3学級規模の庄内総合高校でもインターハイに出場できるような部(体操部)もあり、そのようなことも高校の魅力である。

(質問・意見)

- 小規模校になると教員の配置が少なくなり、支障をきたすという説明だが、退職した教員、大学の教員、民間会社で専門の事業をやっている会社の人材などを外部から借りてくることはできないか。
- 学校の座学だけでは、社会に出た場合にほとんど通用しない。現場で活躍している人たちから話を聞く機会があれば、生徒達も納得して学ぶことができるのではないか。
- 庄内総合高校には、生徒も先生も一緒に商工会のイベントに参加してもらっており、先生方も小さくても地元の会社についてはわかっている。酒田市や鶴岡市に高校が集中したのでは、庄内町のような地域の詳しい情報が入らず、細やかな進路指導はできないのではないか。

(質問・意見)

- 鶴岡北高校は地元では女子の学校というイメージが定着している。実質的な共学化の実現に向けては、ある程度のまとまった数の男子生徒が受検することが必要だと思われる。入学者が少数でとどまった場合、いじめの温床となる懸念もある。鶴岡北高校は普通科の再編対象になっているという不安材料がある中で、やはり再編整備にはより慎重であって欲しいと思いつつも、積極的に普通科における男女の生徒比の偏りを是正して欲しい。

(県教育委員会)

- 酒田西高校、米沢東高校の共学化の時にも、ある程度のまとまった男子生徒が、受検して今に至っている。保護者の方々の一緒に受検させようというような動きもあったと伺っている。まとまった男子生徒が負担なく志願できるように、中学校の先生方や地域の方々にも説明しながら、進めて行きたい。

(質問・意見)

- 私の地域（酒田市松山）から総合学科に入りたい生徒がいる場合、庄内総合高校が鶴岡中央高校に統合されたのでは、家族による送迎を含めて負担が大きく、経済的に許されない家庭の生徒は通学に困ることになる。自転車で通える範囲の学校を残して欲しい。
- 庄内総合高校の総合学科は県内で初めて設置され、庄内町では議会をはじめ、町民が温かくバックアップをしながら教育を行っている。このようなところは、特例として存続させて欲しい。
- 小規模校は教員の配置数が少ないと言うなら、東北公益文科大学や退職した教員からボランティアでサポートしてもらおうなどの方策を考えてはどうか。
- 統合という話はこれで終わりにしてもらいたい。将来、庄内町には一つ高校を置くこととして欲しい。庄内町は人づくりを中心に据えている町であるので、庄内総合高校を是非残して欲しい。

以 上